

歴史を歩く

近年町内で行った
発掘調査の最新情報!

■平成30年度に刊行した発掘調査報告書

発掘調査報告書とは、遺跡の発掘調査結果をまとめた本です。この報告書は文章だけでなく図面や写真を使って作成しています。

大崎町では、平成30年度に3箇所の遺跡の発掘調査結果をまとめた「栗之峰B遺跡・飯隈遺跡群・横瀬古墳」を刊行しました。今回の報告書で計12冊目になり、これらの報告書は大崎町立図書館で閲覧できます。



報告書のページ

■栗之峰B遺跡

栗之峰B遺跡は、栗之峰地区の田んぼに広がる遺跡です。戦時中に撮影された航空写真に古墳と思われる丘の影が写っており、古墳の有無を確認するため、発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、古墳は見つかりませんでした。新たに別の時代の遺跡を発見しました。



昭和28年の航空写真

■飯隈遺跡群

飯隈遺跡群は、町内でも古墳（円墳）が多く分布する遺跡です。この遺跡は古墳以外に、地下に空洞（玄室）を掘り遺体を埋葬する、珍しいお墓が眠っている場所です。近年この空洞により畑の陥没が相次ぎ、緊急発掘調査を行っています。

このお墓の空洞の中からは、当時の人の骨や鉄の武器も見つかっています。



空洞（玄室）の入り口

■横瀬古墳

横瀬古墳は、県内で2番目・九州で5番目に大きく、南九州でも有力な人物が眠っているといわれている前方後円墳です。

古墳の周濠（古墳の周囲に掘られた溝）から発見された埴輪片などを再整理し、今回の報告書に掲載しました。発掘調査は鹿児島県教育委員会が実施したのですが、その当時の図面や写真、出土した埴輪片は大崎町が譲り受け、新たな横瀬古墳の姿を検討しました。



横瀬古墳から発見された埴輪片